

平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

| | |
|--|---|
| 経費の種類 | <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕 |
| プロジェクトの名称 | 附属特別支援学校におけるセンター的機能としての臨床研修会の構築 ～チェックリストに基づく児童生徒の実態把握と授業の展開に関する研修～ |
| 報告者氏名・所属・職名 | 青山真二・札幌校・教授 |
| プロジェクト担当者氏名・所属・職名 | 青山真二・札幌校・教授、小野寺基史・教職大学院・教授、五十嵐靖夫・函館校・教授、北村博幸・函館校・教授、細谷一博・函館校・准教授、紀藤典夫・附属特別支援学校・校長、太田千佳子・附属特別支援学校・副校長、附属スタッフ・附属特別支援学校・教諭 |
| 研究内容及び成果の概要 | |
| <p>本研究は、北海道教育大学附属特別支援学校におけるセンター的機能の一つとして、北海道内の現職教員のための臨床研修会を4日間に渡って開催し、その在り方について研究を進めるものである。本プロジェクトでは、附属教員によるモデル授業を基に、行動観察チェックリストを用いて、児童生徒の実態把握及びそれに基づく授業の展開を実際に試行し、適切な指導の在り方について研修を深めた。臨床研修会の準備に当たっては、附属のスタッフが全員で、行動観察チェックリストの作成やプレ授業等を行い、臨床研修に耐える資料を作成し、これらの資料を用いて、公募で集まった研修生が児童生徒の実態評価・指導計画の作成・実施、評価を行い、研修を進めた。</p> <p>本研究では、現職教員の研修として、臨床を通じた実践的研修の有用性が示された。具体的には、研修会に参加した他校の教員のほとんどが、本臨床研修会が有益であったことを事後アンケートで述べている。また、こうした臨床研修会が自分たちの職場の近くで実施されることを望む教員も多いことが示された。さらに、本研修で用いた行動観察チェックリストに基づく児童・生徒理解の方法は、子ども理解の方法として有効であるとともに、実際の指導を検討する際に具体的な評価基準として有効であることが示された。</p> <p>しかしながら、本研修会を進めるにあたっては、児童生徒の行動観察チェックリストの作成やそれに基づくプレ授業等、附属スタッフの事前準備もかなりの労力を要していることから、もう少し簡便で、汎用性の高いチェックリストを作成する必要も明らかとなった。その意味では、行動問題チェックリストとコミュニケーションチェックリストは、一般化された内容となっていることから、今後も活用が十分可能であることが示された。本研究を進めた結果、本来、現職教員の研修会の在り方を明らかにすることが目的ではあったが、「臨床研修」の開催という手法は、参加する教員だけではなく、開催する側の教員にとっても、これまでの附属の教育を見直す良い機会となり、今後もさらに研究を深めていく必要があると考える。</p> | |
| 成果の公表の状況 | |
| <p>【著書】※研究成果の書籍化について現在検討中である。</p> <p>【学術論文】北海道特別支援教育学会でポスター発表として成果を公表。</p> | |
| 教育現場で活用可能な分野・教材等 | |
| 行動観察チェックリストは、教育現場で活用可能であり、本チェックリストを参考に自作のチェックリストを作ることにより、具体的な指導案作成や評価に活用できる。 | |
| 配布又はダウンロード可能な資料 | 特になし |
| 問い合わせ先 | 代表者：青山真二 電話：011-778-0687 FAX：011-778-0687 mail：aoyama.shinji@s.hokkyodai.ac.jp |